

## 犬山版「シメパフェ」始まる

### 12店で新作考案 疲れを癒やして

春の観光シーズンに合わせ、犬山市の十二万所の飲食店が二十九日、「シメパフェ」を期間限定で発売した。

シメパフェは札幌市でブームで、パフェで最後を締めくくるの意。犬山では十二店が新しいパフェを考案し、まち歩き最後に疲れた体を甘いパフェで癒やしてもらおうと売り出した。二十九日から四月七日、四月二十七日から五月六日と二期に分けて販売する。

犬山版シメパフェを提案したのは金城学院大（名古屋守山区）の庫元正博教授（みもとのせみ）で広告やマーケティングを学ぶ三年生十人。市と市観光協会から犬山観光の課題である夕方以後の誘客アイデアを尋ねら

れて知恵を絞った。

ゼミ生が札幌旅行でシメパフェの存在を知り、犬山版を提案した。まとめ役の川田真由さん（三）と吉田早那さん（三）は「企画段階から犬山に何度も足を運

び、お店に協力を呼び掛けて実現できたのでうれしい」と喜んでいて、二十九日にはゼミ生らが犬山城前でちらしを配ってPRした。

期間中、通常は夕方閉店の店も二時間ほど延長営業する。（三田村泰和）



シメパフェをPRする金城学院大の学生と市キャラクターわん丸君。犬山市の犬山城前で

この記事・写真等は、中日新聞社の許諾を得て転載しています。  
2019年4月3日 中日新聞社より